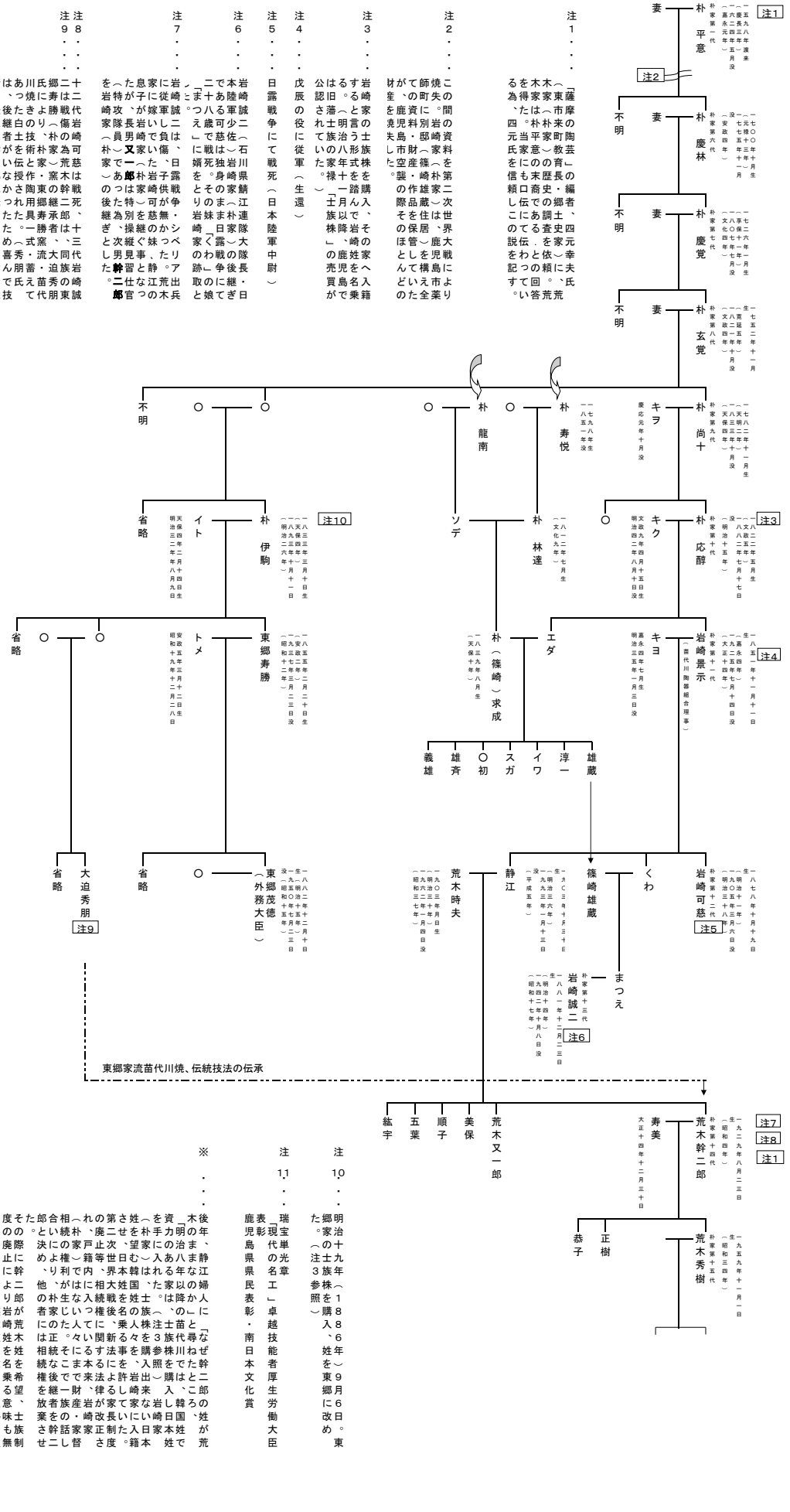
荒木家（朴家）の歴史



注1・・・「薩摩の陶芸」の編者、四元幸夫氏（東市来町教育委員会）に、荒木家の歴史・郷土史の調査を依頼した。当家での末裔にあたる荒木平意の口伝にても回答を得ることも、四元氏を信頼しこの説を記す。

注2・・・この間の資料を第二次世界大戦により焼失。

注3・・・岩崎家の士族株を購入、その家へ入籍する。と言う形式を踏んだ。岩崎姓を名乗るは旧藩士族の家禄（明治八年十一月以降、「士族株」の売買が公認されていた。）

注4・・・戊辰の役に従軍（生還）

注5・・・日露戦争にて戦死（日本陸軍中尉）

注6・・・岩崎誠二（石川県鯖江連隊長・日本陸軍少佐）と朴家（佐賀藩士）の独身の後継ぎ娘で慈恵会病院看護婦長であった可慈（身分違いの為、朴家の養女となり）日露戦争に従軍し戦死。その妹まくわ（二十八歳で戦死）に婿をとり朴家の跡継ぎとした。

注7・・・岩崎誠二は、日露戦争・シベリア出兵に従軍し負傷、帰還した。荒木家に嫁いだ静子が傷病のため無くなった後、朴家の継承者として迎えた。

注8・・・十二代岩崎可慈は戦死、十三代岩崎誠二は戦死の為、朴家の継承者は荒木家の分家・東郷家の寿勝（大迫秀朋の甥）が継ぐ。

注9・・・郷寿勝（朴家）は、大迫秀朋の甥で、一勝（式部官）の喜久子と結婚。苗代川焼と白薩焼の技術を伝授された。一勝は荒木家の養子となり、荒木姓を名乗る。

注10・・・明治十九年（1886年）9月6日。東郷家の士族株を購入、姓を東郷に改めた。（注3参照）

注11・・・瑞宝単光章「現代の名工」卓越技能者厚生労働大臣表彰　鹿児島県県民表彰・南日本文化賞

※・・・後年、静江婦人が資料を「木明の治まで、尋ねて来た」と言う手紙により、荒木家に入籍された。